



平成 27 年 6 月 26 日

各 位

会 社 名 シンワアートオークション株式会社  
代表者名 代表取締役社長 倉田 陽一郎  
( J A S D A Q ・ コード 2 4 3 7 )  
問合せ先 経理部長 益戸 佳治  
電話番号 0 3 - 5 5 3 7 - 8 0 2 4  
( <http://www.shinwa-art.com/> )

### 平成 27 年 5 月期 業績予想の修正に関するお知らせ

平成 27 年 1 月 9 日に公表しました平成 27 年 5 月期 (平成 26 年 6 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日) の通期連結業績予想及び平成 26 年 7 月 11 日に公表しました平成 27 年 5 月期の通期個別業績予想を、下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

#### 1. 連結業績予想の修正について

平成 27 年 5 月期通期連結業績予想数値の修正  
(平成 26 年 6 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	3,728	304	286	163	円 銭 28.79
今 回 修 正 予 想 (B)	2,947	76	49	13	2.45
増 減 額 (B-A)	△780	△228	△236	△149	—
増 減 率 (%)	△20.9	△75.0	△82.6	△91.5	—
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 5 月期)	1,385	135	122	108	20.39

(注) 当社は、平成 25 年 12 月 1 日付で当社普通株式 1 株につき 100 株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり当期純利益を算定しております。

#### <修正の理由>

① エーパック株式会社による再生可能エネルギー関連事業におきましては、50kW 級の低圧型太陽光発電施設の販売が、平成 26 年 12 月にはグリーン投資減税の追い風を受けて順調な消化を見せ、平成 27 年 3 月末までの完工物件の予定数が当初より大幅に上回る見込みとなりましたので、平成 27 年 1 月 9 日付で通期の連結業績予想の修正を公表いたしました。平成 27 年 1 月には、既に完工し、購入顧客も決定して系統連系工事を待つのみだった岡山 15 基の連系が見送りとなり、千葉で予定していた 5 基の連系販売のうち 2 基の連系が延期になったため、20 基予定していた販売台数が 3 基という結果に終わりました。

これにより、1 月販売計画分を補完すべく、当初の計画から大幅な計画の変更が必要となりました。急遽、鹿児島県内で 15 基の完工物件を仕入れ、営業努力を重ねてまいりましたが、こちらでは物件と顧客の需要とが合わずに成約に至りませんでした。また、平成 27 年 2 月以降は千葉県内の連系が見込める案件に集中して追加の部材を発注し開発と販売を進め、2 月に 1 基、3 月に 3 1 基、4 月に 2 基、5 月に 9 基の販売をいたしました。下半期

に予定していた 56 基には届かず 55 基の販売に留まりました。平成 27 年 5 月末まで営業活動を続けておりました千葉県内 14 基の販売は来期に持ち越しとなりました。

- ② 高圧型太陽光発電施設の販売に関しましては、平成 27 年 3 月に 500kW 級の太陽光発電施設 1 基を連系・販売いたしました。計画では更に自社で開発を続けておりました兵庫県の 800kW 級太陽光発電施設を販売し、合計 2 基の実績を上げる予定でしたが、兵庫県の 800kW 級太陽光発電施設については、最終的に自社で保有することといたしました。当該案件につきましても、当初は販売案件として複数のお客様と商談を続けてまいりましたが、その中で最終的に条件が合わなかったため、自社で経過観察をしていくこと、及び今後エネルギー関連事業を継続するにあたって電力の卸売りや風力発電の可能性もこの場所で模索したいと考えたことにより、一旦自社保有することを決定しました。従いまして、高圧型太陽光発電施設 1 基分の収益を補完すべく、平成 27 年 3 月中旬頃より元々自社で保有しております宮崎県西都市の 1 MW 級太陽光発電施設の売却に本格的に取り組みました。九州、関西、関東等複数の候補先と最後まで粘り強く交渉を続けてまいりましたが、5 月末までの成約には至りませんでした。
- ③ 売電収入につきましては、上半期は計画値を下回っておりましたが、下半期は天候に恵まれ、更に売却予定だった兵庫県の 800kW 級太陽光発電施設の売電収入も加わったため、最終的には計画値を 30.1% 上回る見込みとなりました。
- ④ 計画値との販売台数での差異は、低圧型太陽光発電施設で 1 基、高圧型太陽光発電施設で 1 基のみだったものの、売上、利益ともに大幅に目標に満たなかった最大の要因は、低圧型太陽光発電施設で平成 27 年 3 月に見込んでいた、グリーン投資減税の適用による 100% 即時償却を目的とした法人の需要が想定よりも少なく、販売価格を高く設定できなかったこと、及びまとめ買いによる販売台数が伸びなかったことが挙げられます。1 基あたりの計画値との乖離率は、売買代金で約 30% 減、粗利益で約 40% 減であり、結果として目標数値との間に大きな差異が生じる要因となりました。この乖離は平成 27 年 3 月以降顕著に表れており、グリーン投資減税適用による 100% 即時償却というメリットがなくなった平成 27 年 4 月以降は、生産性向上設備投資促進税制の適用を促す営業活動を集中して行ってまいりましたが、制度への認知度がまだ低く当期実績には結びつかなかったため、結果として 4 月以降も引き続き販売価格を低く設定または遠隔監視装置の設置をサービスする等により、利益率を下げた販売することとなりました。また、計画では大きく見積もっておりました高圧型太陽光発電施設 1 基分の売上、利益がともになくなる結果となり、予想を下回る要因の一つとなりました。

従いまして、販売台数といたしましては目標数の 95% 以上を達成しているものの、売上、利益ともに補完するには至らず、前回公表の予想値に対して売上高は 73.9%、営業利益は 54.3%、経常利益は 36.7%、当期純利益は 47.8% と、大きく下回る見込みとなりました。

また、子会社 J オークション株式会社において、平成 26 年 11 月及び平成 27 年 3 月に香港で開催したオークションの会場費、カタログ費、販売費及び一般管理費が増加したにもかかわらず取扱高、売上高ともに当初予算を大きく下回りました。

当社単体の業績に関しましては、下記個別業績予想の修正の理由のとおりであります。

以上により、当社グループの平成 27 年 5 月期通期の連結業績予想数値を、上記のとおり

修正するものであります。

## 2. 個別業績予想の修正について

平成 27 年 5 月期通期個別業績予想数値の修正  
(平成 26 年 6 月 1 日～平成 27 年 5 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,201	160	101	円 銭 17.95
実 績 値 (B)	1,093	32	△9	△1.60
増 減 額 (B－A)	△107	△128	△110	－
増 減 率 (%)	△8.9	△79.6	－	－
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 5 月期)	1,169	144	125	23.48

(注) 当社は、平成 25 年 12 月 1 日付で当社普通株式 1 株につき 100 株の割合で株式分割を行いました  
たが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり当期純利益を算定して  
おります。

### <修正の理由>

- ① 当事業年度のオークション事業全体の出品点数は、前年比 1.28%増の 5,458 点、落札率は  
前年比 0.4 ポイント減の 91.1% (いずれも前事業年度の Bags/Jewellery & Watches オーク  
ション開催分を除いた数値で比較しております。) となりました。

前事業年度は、岩下記念館コレクション (取扱高 771,305 千円) や日本刀オークション (同  
206,380 千円) 等の大型の特別オークションの開催がありましたが、当事業年度は、平成 26  
年 7 月開催の「棟方志功―漆黒の宇宙、紅色のいのち」以外の大型の特別オークションの開  
催がないものとして、すでに当初の業績予想値には織り込んでおりました。

高額品を取り扱う主力の近代美術オークションでは、岩下記念館コレクションの近代美術  
部門で取り扱った作品を含めた前年数値との比較でも、出品点数は前年比 24.5%増の 853 点、  
取扱高は前年比 17.1%増の 2,577,550 千円、落札率も前年比 1.8 ポイント増の 84.5%と、と  
もに大きく増加いたしました。

しかしながら、平成 27 年 1 月開催の近代美術オークションの実績が、取扱高、売上高と  
もに当初予算に対して大きく未達となった他、オークション事業全体の売上構成では、売上  
高に占める手数料収入の割合が増加した半面、利益率の高い在庫商品の取り扱いが減少しま  
した。また、低価格品の取扱高減少もあり、その結果当社オークション事業の取扱高は前年  
比 2.2%減の 3,754,450 千円、売上高は前年比 13.0%減の 763,247 千円となりました。

- ② また、当社は、商品を在庫として取得した後、リスク管理の一環として在庫商品による将  
来の不確定な損失の発生に備えるために、一定期間を経過する毎に内規に従って評価減を行  
っております。

当社では、これまで在庫商品の取り扱いにより多額の損失が発生したことはありませんが、  
保守的な観点から、予め定めた基準に従って商品原価を積み増しし、簿価の引き下げを定期  
的に行っております。

従いまして、実際の在庫商品の評価額は、引き下げられた簿価とは必ずしも一致するものではなく、また、この評価減により直ちに資本流出が発生するものではありません。

当社は平成 23 年 5 月期より積極的に在庫商品の取得を行ってきており、その後の当社の収益に大きく貢献してきましたが、当事業年度も内規に基づき、100,263 千円の評価減の積み増しを実施することにより、結果的に利益を大きく圧迫することとなりました。

- ③ これらのオークション事業の不足分及び在庫商品の評価減による積み増し分に充てる収益の捻出策として、平成 27 年 3 月以降開催のオークションで挽回するべく作品募集に鋭意努力すると共に、精力的に多くのプライベートセール案件に取り組みました。

その結果、3 月以降のオークション事業では、特別オークションとして中川一政コレクション(平成 27 年 3 月)やワインオークション(同 5 月)を開催し、ほぼ目標どおりの実績を挙げることはできましたが、収益を補完するまでには至りませんでした。

また、特にプライベートセール部門では、平成 27 年 3 月初旬頃から大型案件の具体的交渉を開始しました。この案件は、成約により、オークション事業での不足分及び評価減の積み増し分をカバーするに十分な収益をあげることが可能である特別な大型案件でしたが、販売交渉が思うように進まない中、4 月中旬頃には、別の大型案件の交渉も開始しました。この案件も、同程度の収益が見込める大型案件であり、これら 2 つの大型プライベートセールの成約に向けて当事業年度末ぎりぎりまで鋭意努力いたしましたが、成約には至りませんでした。

以上により、当事業年度の売上高は、1,093,777 千円、経常利益は 32,801 千円となる見込みであります。

なお、前述の在庫商品の評価減は、あくまで当社の自主ルールに基づくものであり、税務上は損金不算入となることから、当事業年度は法人税等 48,841 千円、法人税等調整額△23,856 千円の計上を見込んでおります。また、当事業年度におきましてシンワメディコ株式会社及び J オークション株式会社 2 社の関係会社株式の減損処理を行い、特別損失を計上いたしますので、当期純損失は△9,075 千円となる見込みであります。

### 3. 配当予想について

当期の配当予想につきましては、当社の在庫商品の評価減は損失ではなく、実質的な収益は一定程度あがっていること、また現時点においては、当社の現下の事業環境が来期も継続するものとの予想のもとに、前回公表値から修正はありません。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があることにご留意ください。

以 上